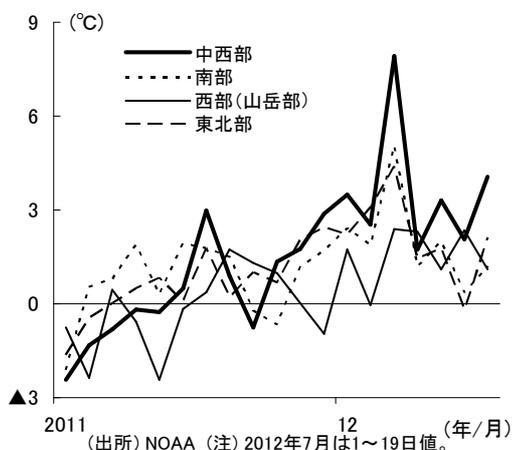


深刻化する米国旱魃

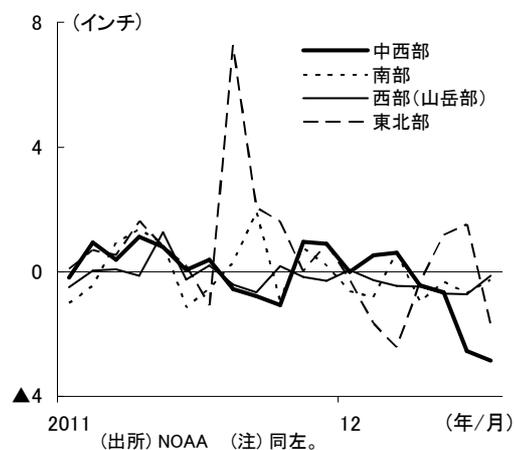
～ コーン・大豆産地の中西部が深刻 ～

- (1) 7月は、とりわけ穀物生産を左右する重要な時期。コーンは受粉期、大豆は開花期から受粉期を迎えるため。米国の主要生産州をみると、7月22日時点で、シルキングと称されるコーンの受粉ステージは最速のイリノイ州で98%。全米平均で86%と9割弱。例年では同時期6割前後にとどまるのに対して、今季は大幅な生育進捗。一方、大豆では97%が開花したミシシッピ州が最速。全米平均でも79%と8割が開花期に。コーンと同様、例年では同時期6割に過ぎず。平年を大きく上回る高い気温が生育加速（図表1）。エリア別にみると、コーンや大豆の主要生産地である中西部での高温が顕著。加えて、7月に入り、例年を一段と上回る高温に。
- (2) 一方、降水量をみると、中西部の降水不足が6月以降、深刻化（図表2）。7月は1日から19日まで19日間のデータのため、19日分の降水量を31日分に割り増して平年と対比。なかでもネブラスカ州オマハや南ダコタ州スーフオールでは19日間の降水量が0.01インチ。ミズーリ州カンサスシティ0.26インチ、アイオワ州デモイン0.28インチなど、広大な地域がほぼ降水量ゼロ。一方、南部や西部では降水不足緩和。しかし、南部は南北カロライナ両州やバージニア州などアパラチア山脈以東で降水。南部ではアリゾナ州やネバダ州、ユタ州などロッキー山脈以西で降水。穀倉地帯では依然深刻な降水不足。
- (3) 作柄判断が一段と悪化（図表3）。直近7月22日時点で「良い」と「とても良い」の合計と、「悪い」と「とても悪い」の合計とを対比すると、コーンは26対45、大豆31対35、牧草18対55。いずれも「悪い」と「とても悪い」の合計が「良い」と「とても良い」の合計を凌駕。開花期を迎えるなか、高温少雨で受粉が不調となれば、大豆でも作柄判断がさらに悪化する懸念大。今月に入り穀物価格は最高値更新。今後、一段の穀物値上がりを起点にインフレ圧力の増大が各国に広がる展開が視野。

（図表1）米国のエリア別気温（平年差）



（図表2）エリア別降水量（平年差）



（図表3）主要生産地の作柄判断

